

厚生労働省 造血幹細胞移植医療体制整備事業
令和3年度 造血幹細胞移植推進拠点病院
(主催：愛媛県立中央病院 共催：岡山大学病院)

中四国ブロック小児セミナー 移植後の生活を支える

—QOLの向上とワクチン接種

開催日

11/13(土)

10時～12時35分

開催報告

開催方法:Webexによるオンライン開催

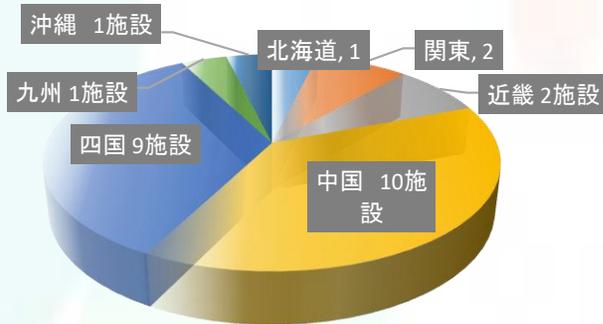
参加者:59名 参加施設:26施設

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、

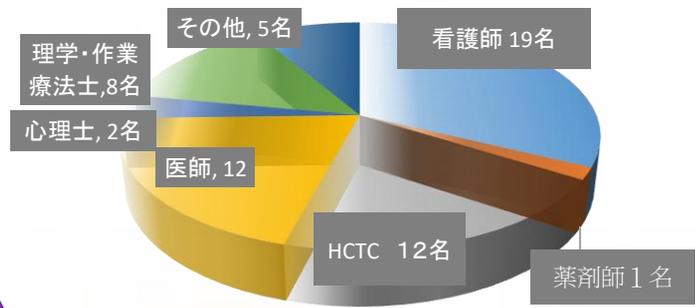
オンライン開催となりましたが

ブロックを超えて多数の方々にご参加していただくことができました。

参加施設



参加職種



小児造血幹細胞移植後のQOL研究

愛媛県立中央病院小児医療センター 石田 也寸志

先生のライフワークである小児がん患者さんのQOLについてお話いただきました。小児のドナー兄弟のQOLが悪いという報告があり、フォローの必要性を示していただきました。また、今後の方向性として、PRO(patient reported outcome)を紹介していただき、肺がんでは生命予後まで改善したと報告があることをお示しいただきました。

LTFU外来においては症状について問診票を用いて患者さん自身に記入していただき、LTFU外来の試みが移植患者さんの生存やQOL向上に寄与するきっかけになるのではと思いました。

移植後の生活を支える

将来を見据えた小児移植後の家族への支援

聖路加国際大学 小児看護学教授 小林 京子先生

前半は、小児がん経験者・移植経験者のトランジションや就学、就労などの課題を捉え、病気のマネジメントを行い、その人がその人の人生を選択できるよう自立を支援することの重要性についてお話いただきました。

後半は小児がん・移植経験者の家族（両親・兄弟）への支援についてお話していただき、小児がん経験者・移植経験者と同様に家族にもトランジションがあり、治療の過程に応じて家族全体を移行させる必要があること、またその支援について具体的にお話いただき、非常に多くの事を学ぶことができました。

当院における移植後予防接種の現状

広島大学病院 小児科 川口 浩史先生

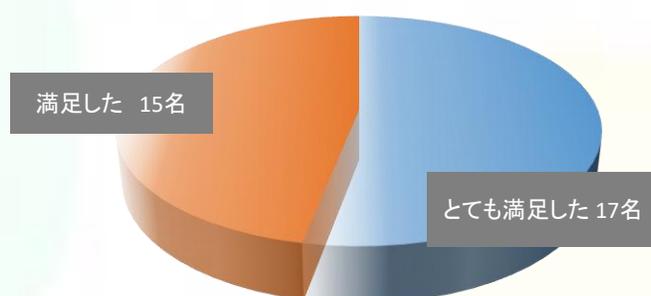
自施設の移植後フォローアップ外来について紹介していただきました。問診票も小学生用や保護者用など分けて作成されており、成人とは違うことがわかりました。予防接種については、ワクチン抗体価を測定し、計画されており、当院でも検討してみたいと思いました。症例提示は20歳代の2人を提示されており、参考となりました。

造血細胞移植後の予防接種

鈴鹿医療科学大学 臨床工学科教授 東 英一先生

東先生は、日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会・予防接種部会の部会長をされておられます。移植患者におけるSARS-CoV-2ワクチン接種、Long COVID、および生ワクチンの課題、助成制度などもお話いただき、通常、予防接種に知識がない我々内科医にとっても、非常に勉強となるお話でした。

研修の満足度



参加者からの声

～アンケート結果（一部）から～

- ・これまでの小児セミナーで、もっとも引き込まれた内容の講演ばかりであったと感じました。
- ・凄く興味深い内容でした。
- ・これまでの移植後小児におけるQOLの変遷を知りました。
- ・患者のみでなく、付き添いの親御さんに対しての難しさを感じていたので、とても勉強になりました。
- ・具体例も豊富でわかりやすかったです。
- ・移植後の免疫や予防接種の国内事情を知る事ができました。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。

次回のセミナーも、ご都合がよろしければご参加いただけますと幸いです。

愛媛県立中央病院